

性的マイノリティコミュニティとビジネスの連携

氏 名 古川 将太

指導教員 古賀 桃子

要旨

本論文は性的マイノリティの当事者および当事者から成るコミュニティが抱える課題を整理した上で、ビジネスの視点から解決策を探ることを目的としている。

近年、性的マイノリティに対する社会的な認知度や基本的な理解促進のための法的な環境整備が進みつつある一方、当事者が抱える課題は依然として存在している。先行研究でも、性的マイノリティ高齢者の社会サービスを利用する際の心理的障壁や、家族以外の介護が必要となるケースが多いことが指摘されている。

そこでまず海外の状況を把握するべく、法体系や関連政策の国際比較とアジアにおける事例調査を行った。さらに、日本国内の当事者へのインタビュー、民間による営利、非営利事業の活動に関する調査を行った。併せてアジアの中でも先進的な台湾を起点として、諸外国の法整備、政策状況を分析している。さらに日本国内の民間事業の事例として、福岡市美野島商店街の「FLEAMART」や大阪市北区の「オルガワークス」社の活動を考察した。

その結果、性的マイノリティのコミュニティは閉鎖性を有し、当事者は年齢を重ねるにつれ孤独感を抱く傾向があるため、社会との部分的なつながりを模索する必要があるとの見解に到った。とりわけ誰しにも支持される質の高い商品・サービスの提供、さらに権利や政治的な主張を控え、経済活動を通じて当事者や地域社会と信頼を築くことが良好なパフォーマンスを生み出すカギとなることがわかった。そこで、企業や組織からリタイアをした後でも性的マイノリティ当事者が地域社会から孤立しない社会づくりを目標に、社会と当事者がつながるコミュニティ作りを具現するビジネスモデルを提言した。

キーワード

性的マイノリティ ビジネスモデル 高齢者 孤立 コミュニティ